

対華 21 か条の要求・・・軍事的圧力で受諾せまる

袁世凱 (えんせいがい)

日本は日英同盟を理由に、連合国に立ってドイツに宣戦しました。日本軍は、中国にあったドイツの軍事基地青島を攻撃して山東半島を占領しました。また、太平洋のドイツ領南洋諸島を占領し、インド洋や地中海にも軍艦を送りました。

青島会戦



祝う花電車 (東京市)



(写真出典 『日本の歴史 6』 ほるぷ出版)

日本政府は、欧米諸国が大戦のため、アジアをかえりみる余裕がないのをみて、戦争が始まった翌年の1915(大正 4)年、中国の袁世凱政府に対して 2 か条の要求を出しました。その内容は、大きく 5 つに分かれています。

対華 21 か条の要求

第1号	ドイツが山東半島にもっていた利権を日本が引き継ぐこと
第2号	南満州のモンゴルで日本が政治・経済での特別な権利をもつこと
第3号	中国の鉱山を日中が共同経営すること
第4号	中国の沿岸を他国に割譲しないこと
第5号	中国政府に日本人の政治・財政・軍事顧問を置くこと

袁世凱は中国の世論に押され抵抗しましたが、第 5 号をのぞいて受け入れました。この後、中国では強い排日運動が始まりました。



3・1 運動と 5・4 運動・・・植民地

民族解放運動の高まり

ロシア革命の影響は、中国と朝鮮にもおよびました。1919 年(大正 8) 3 月 1 日、朝鮮のソウルで、独立を請願する集会が開かれ、独立宣言が読み上げられました。

また、デモ行進も実施され、この運動はたちまち朝鮮全土にひろがり、各地で日本軍隊と戦いました。中国でも 1919 年 5 月 4 日、北京で学生達が、ドイツの権益を日本に譲り渡したパリ講和条約反対を叫んで集会を開きました。これをきっかけに労働者や市民・商人も参加し、運動は中国全土にひろがりました。



排日国民大会 (1919 年北京天安門内) (写真『日本の歴史 6』ほる

ぷ出版)

3.1 運動関係図



(図 『日本の歴史 6』 ほるぷ出版)